

## 昭和 63 年度 全国赤十字臨床衛生検査技師会 総会議事録要旨

### 事 務 局

**場所** 日本赤十字会館 201 号会議室

**日時** 昭和 63 年 7 月 7 日 (水) 15:30~17:00

**参加者** 出席者 128 名, 委任状 890 名, 計 890 名  
(会員数約 950 名)

**総司会** 藤田良一 (水戸)

**議長** 笠井直幸 (姫路) 前畑哲郎 (唐津)

**書記** 総務係

#### 式次第

- 一. 開会の言葉 藤田
- 一. 会長挨拶 吉岡稔 (成田)
- 一. 来賓挨拶

#### 議事

- 一. 昭和 62 年度事業経過報告 西岡光夫 (葛飾)
- 一. 昭和 62 年度会計報告 川田菊江 (大森)
- 一. 会計監査報告 稲葉宏文 (秦野)  
小川義典 (津久井)

#### 議題

- 一. 昭和 63 年度事業計画案 吉岡
- 一. 昭和 63 年度会計予算案 川田
- 一. その他の議題  
日本赤十字臨床衛生検査技師会会則の改正
- 一. 役員選出 役員推薦委員
- 一. 新旧役員の挨拶
- 一. 閉会の言葉 藤田

- 一. 開会の辞 藤田
- 一. 会長挨拶

吉岡です。最初に大変悲しいニュースですが、大阪日赤の私共技師会の近畿ブロックの幹事として活躍されました山下一先生が 6 月 4 日急逝されました。私共技師会で大変御活躍を頂き特に血液関係におきましては全国技師会の中でも指導的な立場にいらっしやいました。私共は次の時代を担っていかれる先生だと思っていました。突然の病気で亡くなられて

しまいました事を慎んでご報告致しまして、皆様と共に哀悼の意を表したいと思います。黙禱をお願い致します。有難うございました。

それでは総会の開催に当たりご挨拶を申し上げます。私共技師会は皆様の参加のもとに順調に経過致しまして本年に至りました。今日は短い時間ではございますが、これまでの経過と会計の報告を致し、さらに本年度の活動計画を提案致しまして皆様の審議を戴きます。

非常に厳しい医療情勢でございますが、私共は赤十字病院の検査部の組織の一員としまして地域でそれぞれ活躍されております皆様と共に此の検査部の発展を期待します。今日は色々と審議を戴きまして本年度の私共の活動に対しましての積極的なご協力をお願い致しまして簡単ではございますが挨拶にかえさせて戴きます。

#### 一. 来賓の挨拶 (出席の来賓なし)

#### 一. 議長選出

**総司会**；一議長の希望者を会場に求める。総司会一任の声あり、総司会の案を会場に承認を求め、会場は全員が拍手で承認—

**議長挨拶**；一会在がスムーズに進行するよう会場に協力を要請、さらに会の成立を報告、昭和 62 年度の事業経過報告を要請—

**総務係**；昭和 62 年度事業経過報告、各地区ブロック事業経過、そして、昭和 63 年度の福見秀雄賞受賞者及び厚生大臣表彰者を披露

報告事項表を参照—

**議長**；一昭和 62 年度の会計報告を要請—

**会計** (川田)；一昭和 62 年度の収支決算書及び特別会計報告の原案を読みながら報告 昭和 62 年度の収支決算書、特別会計報告を参照、総会開催が一ヵ月早い点さらに第 5 回日赤学会の返納金を次年度会計に繰入れすることを通知—



**議長**；一続いて会計監査報告を要請—

**会計監査**；一会計監査を7月2日大森日赤検査室で実施、入金伝要、出金伝要、貯金通帳、現金など帳簿を監査しすべての的確であったことを報告—

**議長**；一昭和62年度事業経過報告、収支決算報告、会計監査報告に対して質問、承認を求める—

**会場**；一質問なし、拍手で承認—

**議長**；一昭和63年度事業計画案の報告を要請—

**会長**；昭和63年度の業計画案を提案致します。

第6回日赤検査学会を関東ブロックの担当で開催致します。会長は私という事で、実行委員長は目黒純一先生（武蔵野）にお願い致したい。開催場所は本社になると思いますが、日程等はもう暫くお待ち願いたい。宜しく皆様のご協力をお願い致します。

次に私共の検査部の従事者名簿を作成致したい。というのは赤十字ではどういう人が従事されているか、どういう組織でどういう人員配置をされているか、更に私共の資格がどうなっているかの資料としての価値あるものを作成致したいと思います。

会誌の発行を2号（第20号、第21号）予定致します。

検査稼動状況報告書作成の疑義及び解釈集の作成を実施致します。これは件数の取り扱いにつきまして一定した方向で合理的なものを、そして私共の作業が明確に纏めるものということで、私共としては本社からの諮問も致しますので検討委員会を設けて皆様からのご意見を聞いた上で解答致します。

以上の項目が主な事業提案です。また皆様からの提案を戴きまして、できましたら追加事業と致したいと思います。皆様からのご提案をご期待申し上げます。宜しくご審議下さい。

**議長**；一昭和63年度の会計予算案の提議を要請—

**会計**；一別項表の昭和63年度会計予算案及び特別会計予算案を披露—

**議長**；一会場からの事業計画提案及び質問なく、昭和63年度事業計画案及び会計予算案の承認を求める—

**会場**；一拍手で承認—

**議長**；一その他の議題（日本赤十字臨床衛生検査技師会会則の改正）の提案理由を要請—

**会長**；一会費の値上げ（会活動の活性化、会誌発行回数の増加）、役員の増員（副会長を3名）別項会則を参照—

**議長**；一会場に承認を求める—

**会場**；一拍手で承認—

**議長**；一役員選出 役員推薦委員からの推薦を願う—

**総務**；一役員推薦委員（別表参照）を紹介—

**役員推薦委員**；代表、米田精宏（大阪）；一推薦した新役員（別表を参照）を紹介—

**議長**；一会場に承認を求める—

**会場**；一拍手で承認—

**会場** 近清裕一先生（小松島）；一吉岡前会長を顧問としてはと提案—

**議長**；一提案にたいして同意し、会場に承認を求める—

**会場**；一拍手で承認—

**新旧役員の挨拶**

**吉岡前会長**；只今は顧問の推薦及び承認を戴きまして有難うございました。昭和52年の会長就任以来役員、会員の皆様のご協力、ご援助により大過なく本日まで過ごす事ができました。私個人の事でございますが、丁度来年の7月には65歳になり退職干渉の年齢になります。本当に長い間有難うございました。私共の赤十字病院の事業体が検査技師会の組織を通じて益々活躍される事をご期待申し上げます。

**会場**；一拍手—

**新役員の挨拶**；一新役員各々自己紹介—

**宇夫方貞夫**（盛岡）；大変厳しい医療情勢です。私共病院で働く検査技師はもうすこし活気を持ちまして議論をしながらより一歩でも前進できるよう努めたいと思います。なお、吉岡先生が顧問として残って戴きましたので、私共も大変心強いと思っています。吉岡先生のご指導を得ながら役員の皆様と協力をして立派な技師会にしたいと思っています。宜しくお願い致します。

—吉岡前会長からバトンタッチを受ける—

**会場**；一拍手—

**議長**；一時間が残り、議長提案として各施設の4週5休制の紹介を会場に求める—

**会場**；—5施設から紹介—

**議長**；議事はすべて終了致しました。議長を退陣するにあたり、会長からも言われたとおり厳しい医療情勢です。検査技師が片隅に追いやられていくような気配を受けるこの頃です。今回の健保改正も厳しいものがありますが、私共に検査判断料がつきました。これは私共技師には何か大きな意味があるも



のとして受け止め、ある意味では検査の元年として心し、これから検査の真価が問われる時代だと覚悟しなければならないと思う。どのように社会環境が変化しようと今の状況で検査が無くなる訳はなく、まだまだ病魔について解明できない事が多すぎます。それね向って対処してゆくのが私達の責任であり、また任務であると思っています。たとえどのような

社会環境を迎えようと私達は限りなく任務に対応してゆきたいと思います。ご協力有り難うございました。

会場；一拍手一  
閉会の辞；藤田

(記 総務係)

◇昭和 62 年度事業経過報告◇

昭和 63 年 2 月	第 19 号日赤検査(第 5 回日赤検査学会抄録集)の発行
3 月 4 日	幹事会(大森日赤会議室)
3 月 11 日	第 1 回日本赤十字病(産)院検査部技師長責任者会議開催(松山日赤会議室)
3 月 12 日	全国幹事会(松山日赤)
3 月 12 日～13 日	第 5 回日赤検査学会(松山市)
	学会長 近藤優(松山日赤) 副学会長 近清裕一(小松島日赤)
	実行委員長 芳野時大(松山日赤)
	特別講演 2 題 一般演題 42 題 参加者 180 名
5 月 14 日	吉岡稔会長が第 7 回福見秀雄賞を受賞
5 月 18 日	昭和 63 年度全国日赤検査技師業務研修会の打ち合わせ会議(本社)
5 月 31 日	幹事会(大森日赤会議室)
6 月 6 日	山下一先生の葬儀に会長列席(大阪)
7 月 2 日	会計監査実施(大森日赤会議室)



昭和62年度一般会計収支決算書

(自昭和62年 8 月 1 日～至昭和63年 6 月30日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	1,421,162	学 術 費	280,500
会 費 収 入	1,544,400	旅 費	76,380
広告収入 (22社)	455,000	会 議 費	90,190
受 取 利 息	5,232	会 誌 印 刷 費	879,200
雑 収 入	42,400	事 務 通 信 費	135,880
		事 務 消 耗 品 費	22,590
		事 務 印 刷 費	66,240
		雑 費	21,210
		備 品 費	0
		予 備 費	0
		次 年 度 繰 越 金	1,896,004
	3,468,194		3,468,194

昭和62年度特別会計収支決算書

(自昭和62年 8 月 1 日～至昭和63年 6 月30日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	893,000	赤十字検査学会助成金	400,000
受 取 利 息	5,000	次 年 度 繰 越 金	498,000
	898,000		898,000

昭和63年度特別会計予算案

(自昭和63年 8 月 1 日～至昭和64年 7 月31日)

収 入 の 部	支 出 の 部
前年度繰越金 498,000	赤十字検査学会助成金 500,000
受 取 利 息 5,000	次年度繰越金 503,000
一般会計繰入金 500,000	
1,003,000	1,003,000

昭和63年度特別会計予算案

(自昭和63年 8 月 1 日～至昭和64年 7 月31日)

収 入 の 部	支 出 の 部
前年度繰越金 1,896,004	学 術 費 560,000
会 費 収 入 (850名) 1,700,000	旅 費 300,000
広 告 収 入 (20社) 500,000	会 議 費 100,000
受 取 利 息 5,000	会誌印刷費 2,000,000
雑 収 入 40,000	事務通信費 300,000
	事務消耗品費 30,000
	事務印刷費 100,000
	雑 費 30,000
	備 品 費 50,000
	予 備 費 171,004
	特別会計繰入金 500,000
	次年度繰越金 0
4,141,004	4,141,004



## ◇地区活動報告◇

## 1. 北海道ブロック

昭和62年5月16日 定期運営委員会（札幌市総合卸センター）出席者 10名

9月26日 道内赤十字病院施設責任者会議（置戸赤十字病院）出席者 27名

特別講演「Campylobactre-Like Organisms」 置戸赤十字病院院長 森田 尊先生  
一般演題 8題

63年3月19日 道内赤十字病院技師長会議 出席者 10名

## 2. 東北ブロック

昭和63年7月1日～2日 第2回東北赤十字検査技師長会議及び第17回東北赤十字臨床検査技師研修会（盛岡赤十字病院会議室）

特別講演「検査技師へ望むもの」 盛岡赤十字病院院長 川村隆夫先生  
部門別テーブルディスカッション

## 3. 東部ブロック

昭和63年7月2日～3日 第19回東部ブロック研修会（栃木県厚生年金センター）

当番病院 芳賀赤十字病院 出席者 49名

特別講演「細胞培養とその応用」 宇都宮東病院理事長 尾崎史郎先生  
教育講演「病院経営の現状と赤十字病院の社会的使命」

日本赤十字社企画指導課長 川上静男先生  
部門別テーブルディスカッション 施設代表者会議

## 4. 中部ブロック

昭和62年10月1日～3日 第14回中部ブロック赤十字病院検査技師長課長会議（KKR加賀）

当番病院 金沢赤十字病院 出席者 15名

## 5. 近畿ブロック

昭和62年9月5日 近畿ブロック赤十字病院検査課責任者会議（姫路赤十字病院）

近畿ブロック赤十字病院検査技師研修会 研修内容「システム化について」

一般演題 8題 出席者 60名

## 6. 中国ブロック・四国ブロック

昭和63年6月5日 中四国赤十字病院検査部技師長（課長）連絡会議（岡山県みよしの）

参加施設 10病院

## 7. 九州ブロック 第7回日赤検査学会準備委員会



## 第 7 回 福見秀雄賞受賞者

吉岡 稔先生 (成田日赤)

## 昭和 63 年度厚生大臣表彰者

宇夫方貞夫先生 (盛岡日赤)

金井辰男先生 (大宮日赤)

川越 功先生 (浜松日赤)

高木 厚先生 (元松山日赤)

堤 昭憲先生 (元唐津日赤)

## 役員推薦委員

北海道 野村喜代松 (置戸)

東 北 真柄 武 (八戸)

東 部 金原比良男 (静岡)

中 部 山本 豊 (金沢)

近 畿 米田 精宏 (大阪)

中 国 川西 孝 (岡山)

四 国 芳野 時大 (松山)

九 州 臼井 弘光 (長崎)

## 昭和 63 年度 日本赤十字臨床衛生検査技師会役員

顧 問 河合 忠 (自治医科大学)

吉岡 稔 (成田日赤)

会 長 宇夫方貞夫 (盛岡日赤)

副 会 長 藤田 良一 (水戸日赤)

佐藤 春枝 (前橋日赤)

笠井 直幸 (姫路日赤)

会 計 川田 菊江・金子 美代子 (大森日赤)

会計監査 稲葉 宏文 (秦野日赤)

小川 義典 (津久井日赤)

総 務 係 西岡 光夫 (葛飾日赤)

編 集 係 小林 英雄 (猿島日赤)

常任幹事 小林 英雄 (猿島日赤)

村田 松雄 (医療センター)

地区幹事 北海道 笠置 昭 (釧路日赤)

東 北 猪岡文之助 (秋田日赤)

東 部 目黒 純一 (武蔵野日赤)

中 部 唐木 重夫 (飯山日赤)

近 畿 新井 良樹 (京都第二日赤)

中 国 西村 昭一 (広島日赤)

四 国 近清 裕一 (小松日赤)

九 州 松原 公彦 (大分日赤)

菅原 嵩 (北見日赤)

千葉 利紀 (仙台日赤)

久保 信雄 (横浜日赤)

上田 和裕 (名古屋第二日赤)

大西 将則 (大阪日赤)

深田 靖彦 (松江日赤)

溝渕 功 (高知日赤)

阿部 忠 (福岡日赤)



## 日本赤十字臨床衛生検査技師会会則

第 1 条 この会は日本赤十字臨床衛生検査技師会と称し、事務所を会長の委託する施設の検査部内に置く。

第 2 条 この会は会員の学術、技能の向上研究、相互の福祉並びに親睦を図るを目的とする。

第 3 条 この会は第 2 条の目的達成の為、次の事業を行う。

1. 学術講演並びに講習会等の開催
2. 調査研究
3. 会誌の発行
4. 会員の福祉厚生
5. その他必要な事項

第 4 条 この会の会員は、全国の赤十字病院（診療所、産院、血液センターを含む）に勤務し臨床衛生検査技師の資格を有するもので、規定の入会手続きを完了したものとする。

第 5 条 この会に入会しようとする者は、入会申込書に所定の事項を記入し、会費年額 2000 円をそえて会長に申込みものとする。

第 6 条 この会を脱会しようとする者は、会長に届出なければならない。

第 7 条 この会に次の役員を置く。

会長 1 名、副会長 3 名、常任幹事若干名、幹事若干名、合計 2 名、会計監査 2 名。

第 8 条 この会の役員は総会において選出する。役員の任期は 1 カ月として留任を妨げない。

第 9 条 この会に特別会員を置くことが出来る。特別会員は幹事会の推薦により総会で選出する。

第 10 条 この会に幹事会の推薦により顧問を置くことができる。

第 11 条 会長は会を代表し会務を統轄する。

第 12 条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時これを代行する。

第 13 条 幹事は会長の命をうけ、会務を掌理する。

第 14 条 この会に次の会議を置く。

1. 総会
2. 臨時総会
3. 幹事会
4. 常任幹事会

総会はこの会の最高関であって 1 年に 1 回開催する。

臨時総会は、幹事会において必要と認めたととき開くことができる。又、会員の 3 分の 1 以上の要請があった時、開催しなければ

ならない。

幹事会は、総会につぐ決議機関であって会長、副会長、常任幹事、幹事、会計をもって構成する。幹事会は年に 1 回以上開催し、常任幹事会は随時必要な時開催する。

第 15 条 総会は会員の過半数の出席により開催し、決議事項は出席者の 3 分の 2 以上の同意により決定する。可否同数の場合は議長がこれを決定する。

第 16 条 この会の会計年度は、8 月 1 日より翌 7 月 31 日とし、決議の上会員に報告承認を求むるものとする。

第 17 条 この会の経費は、会費その他をもって充てる。

第 18 条 会費は毎年 4 月に 1 カ年 2000 円を前納する。(63 年度より)

但し、納入した会費は事由の如何を問わず返還しない。

又、必要と認めた場合は幹事会の決議を経て臨時に徴収する事ができる。

第 19 条 会計監査は、年 1 回以上会計の監査を行い総会に報告する。

第 20 条 この会則に定めていない事項が発生した時は、幹事会の決議を経て処理し、総会の承認を得るものとする。

第 21 条 この会則の変更は総会の決議によるものとする。

第 22 条 この会則は昭和 50 年 5 月 2 日より実施する。(昭和 52 年 12 月 20 日 1 部改正)

### 附 則

1. 第 4 条の施設に勤務している無資格者で本会の趣旨に賛成し入会する者は、会員として認めることができる。

2. 特に事情のある場合、会長の承認により、会費の分納を認める事ができる。

3. 会計細則は別に定める。

4. 本会に賛助会員を置くことができる。賛助会員は本会の趣旨に賛同し、会長の承認を得たものとする。但し、総会への出席及び議決権を有さない。

5. 本会に会員として永年在籍し、会の発展に功績のあった会員を表彰することが出来る。



## 編 集 後 記

従来会誌の編集は総務部業務の一端でした。それが、総務部は業務繁多につき編集は分離、独立のことという宇夫方新会長のお声掛けで編集部が誕生致しました。部員は、西岡（葛飾）・目黒（武蔵野）・村田（医療センター）・小林（猿島）の4名であります。然し編集とは名ばかりで、今号企画のために第一回の会議を持って出足好調かに見えたのですが、その後が続かず、結局会議はそれきりで了ってしまいました。あとは会員諸氏からお預りした原稿を、充分に目を通すこともなく出版社へ転送、以後は全部おまかせというのが実情でした。誠におはずかしい限りであります。

幸い今回は皆様の多大なご協力もあって、これまでにない原稿の集まりようで誌面が振わったから救われたようなもので、ご協力下さった皆様には深く感謝申し上げます。次号よりは部員一同精一杯頑張って、より良い会誌作りに励んで参る所存ですので、一層のご協力の程お願い申し上げます。

（小林）

日本赤十字臨床衛生検査技師会誌

「日 赤 検 査」

第 20 号

平成元年 2 月 15 日 印刷

平成元年 2 月 20 日 発行

発行所 日本赤十字臨床衛生検査技師会

東京都大田区中央 4-30-11

大森赤十字病院 (〒143)

発 行 者 宇 夫 方 貞 夫

編 集 者 小 林 英 雄

印 刷 人 納 谷 正 夫

東京都渋谷区渋谷 1-10-1 (八千代ビル)

TEL 03-499-5191

印 刷 所 株式会社 近 代 出 版